

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

● ● 学校評価(最終評価)について ● ●

- 目的 … 学校教育目標の実現のために取り組む内容を設定し、目標の達成状況や課題を点検・評価します。その結果をもとに日々の教育活動や学校運営の充実を図るために行う「改善のため(よりよい学校づくりのため)の評価」です。(客観的な評価をすることが目的ではありません。)
- 方法 … ①教職員による自己評価 ②校務分掌等の担当者による評価 ③生徒アンケートによる意識調査 ④保護者によるアンケート ⑤保護者など関係者による評価などで評価します。評価は、中間評価と最終評価を行います。
【中間評価(9月末予定)】: ①~③(公表しません)
【最終評価(2月)】: ①~⑤(公表します)
- 担当の先生方へお願い
最終評価の記入をお願いします。担当者が複数の場合は、意見集約など声掛け・ご協力をお願いします。
* 先生用サーバー⇒00-職員連絡用⇒☆学校評価⇒令和2年度⇒「学校評価最終評価2.19」
* 2月19日(金)までに記入をお願いします。

学校名	伊万里市立伊万里中学校
1 前年度 評価結果の概要	・20項目中6項目でAという結果となった。それは、それぞれの項目の具体的方策を全職員が共有して、共通認識に基づいた実践が不十分だったことが主な原因のように思われる。 ・次年度は、評価項目を精選して焦点化を図り、計画と取組の一体化を図るために年度の途中に中間評価を実施して、取組効果を確認しながら実践を進める。
2 学校教育目標	自ら学ぶ力と志を育む生徒の育成 『涓水精神』を通して豊かな心を培い、郷土に生きる人々の知恵とその思いや願いにふれ、自らの生き方を考えとともに自ら学び志を持って生きる生徒を育てる。
3 本年度の重点目標	○『つなぐ』を大切に信頼と期待のある学校づくり ~「命をつなぐ」「心をつなぐ」「夢をつなぐ」~ 1 授業・学級経営の充実 … 生徒理解と生徒指導3機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係の育成)による話し合い活動等の充実 2 学力向上の推進 … 基礎基本の定着と主体的・対話的でわかる授業づくり

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上を目指す。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・「マイプランの成果指標を達成できた」に対し「よくあてはまる」9.5%、「ややあてはまる」81%であった。生徒アンケートやテストの結果を踏まえた授業改善に取り組む。	A	・「マイプランの成果指標を達成できた」に対し「よくあてはまる」9.5%、「ややあてはまる」93.9%で、マイプランの成果指標を達成することができた。	B	・リモート学習環境の整備を含めた学校や自宅でのICT利活用の推進をお願いしたい。
	○学習内容の定着に向けたわかりやすい授業の実践	○「自分の考えや意見を書く活動を通して、理解力や表現力が向上してきた」と肯定的な回答をする生徒の割合80%以上を目指す。	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、全教科半分以上の授業で「話し合い活動」を設定する。 ・AIDノートを活用する。 ・家庭学習アンケートを実施する。 ・学習計画表を活用する。	B	・話し合い活動の充実や「めあて」に対する「まとめ」を自分の言葉で書くことができるような指導を心がける。 ・授業や小テストと関連させたり学習計画表等を活用させたりして、家庭学習の定着を図る。	B	・「自分の考えや意見を書く活動を通して、理解力や表現力が向上してきたと思う」と肯定的な回答をした生徒の割合84.9%で、書く指導が充実してきた。 ・「平日の家庭学習の時間」1時間以上の生徒の割合は63.7%で、家庭学習の指導については工夫が必要である。	B	・宿題については、子ども達のやる気につながる学校の取り組みに期待します。
	○望ましい学習習慣の形成	○「平日の家庭学習の時間」1時間以上の生徒の割合80%以上を目指す。	・人権講演会(人権集会)や道徳に関するアンケートを実施する。 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等を行う。 ・生徒会活動を通して啓発を図る。 ・人権・同和教育の職員研修及び授業実践の充実を図る。	B	・人権感覚アンケートの1回目を実施し、各学級で学級の課題について討議し、学級づくりに生かせるようにする。 ・道徳では、教員が学年でローテーションをして授業を行うとともに、資料を活用して授業改善に努めている。 ・職員研修、授業実践を行い、人権・同和教育の素地作りを努める。	A	・道徳アンケートを実施した結果、「道徳授業は役に立つと思う」と回答した生徒が86%であった。ローテーション方式で、各教員が授業改善をしながら授業を積み重ねた結果、生徒の意欲が向上した。 ・道徳の授業や総合学習の時間に部落問題学習や人権学習に取り組んだ。全職員で指導案を検討して授業を行い、人権に関する知識と意識を高めることができた。	A	・道徳の授業が充実しているように思います。あいさつをもっと積極的にできる生徒が増えてほしいです。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権感覚アンケート(年間2回)を実施して肯定的な回答をした生徒65%以上を目指す。	・人権講演会(人権集会)や道徳に関するアンケートを実施する。 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等を行う。 ・生徒会活動を通して啓発を図る。 ・人権・同和教育の職員研修及び授業実践の充実を図る。	B	・人権感覚アンケートの1回目を実施し、各学級で学級の課題について討議し、学級づくりに生かせるようにする。 ・道徳では、教員が学年でローテーションをして授業を行うとともに、資料を活用して授業改善に努めている。 ・職員研修、授業実践を行い、人権・同和教育の素地作りを努める。	A	・道徳アンケートを実施した結果、「道徳授業は役に立つと思う」と回答した生徒が86%であった。ローテーション方式で、各教員が授業改善をしながら授業を積み重ねた結果、生徒の意欲が向上した。 ・道徳の授業や総合学習の時間に部落問題学習や人権学習に取り組んだ。全職員で指導案を検討して授業を行い、人権に関する知識と意識を高めることができた。	A	・道徳の授業が充実しているように思います。あいさつをもっと積極的にできる生徒が増えてほしいです。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上を目指す。	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を行う。	B	・いじめの認知や覚知に対するマニュアルの作成ができていない。 ・いじめ対応について、企画・生徒指導部会・職員会議などで事例を挙げて説明した。	B	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルの作成及び見直しを行った。 ・いじめの対応についての研修・会議を行った。 ・職員アンケートでは、「いじめ防止等(いじめ防止のための取組、事案対処等)について組織的な対応ができている」が88.9%であった。	B	・人権に配慮した校則の見直しをお願いしたい。 ・SNSの利用マナーについては家庭と学校との連携が必要だと思えます。
	○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上を目指す。	・PTA生きる力・保体委員会で教育講演会を実施する。 ・進路学習や総合的な学習の時間におけるキャリア学習を通して、将来への希望と生き方を考えさせる。	C	・「将来の夢や目標をもっている」に対し、「よくあてはまる」50.5%、「ややあてはまる」23%であった。コロナ禍の影響が考えられるが、苦境を乗り越えて自分のキャリア学習を切り拓いていく意欲が高まるような機会や授業を工夫する。	B	・新型コロナウイルス感染症の影響で職場体験学習は実施できなかったため、中2年生ではドリームボード研修で将来の夢について考える機会を持った。各学年でキャリアパスポートの取組を実施し、進路について学習することができた。「将来の夢や目標を持っている」については78.8%となった。	A	・家庭でも夢や将来について話す機会を持つようにしたいと思います。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒100%を目指す。 ○朝食を毎朝とっている生徒80%以上を目指す。	・給食週間を設定する。 ・栄養教諭による講話等の取組を行う。 ・生徒会活動を通して啓発を図る。 ・学級活動や家庭科の授業に朝食の大切さについての学習を仕込む。	B	・5月に実施した朝食についてのアンケートでは「朝食を毎日とっている生徒」は80%を超え、達成できていた。2学期は具体的取組を通して成果指標数値の向上を目指したい。 ・家庭科の授業での栄養教諭とのTTIによる指導により、食習慣についての学習を深める。	A	・12月に実施した朝食アンケートでは「朝食を毎日とっている生徒」は82%となり、5月よりも高くなっていった。 ・栄養教諭による指導は全校向けに、放送で2回の実施となった。今後は生徒や教職員だけでなく、家庭と連携しながら、保護者への啓発にも取り組みたい。	A	・すべての生徒が毎日朝食をとれるようになることを願います。
	○心身の健康増進のための啓発と推進	○病気や感染症への対策を意識して実践している生徒85%以上を目指す。 ○運動習慣のある生徒70%以上を目指す。	・生徒、保護者に通信等での啓発を行う。 ・部活動による心身の健全育成を行う。	B	・新型コロナウイルス感染症の予防のため、生徒・職員の検温や保健だより等での啓発を引き続き行う。 ・部活動では、確実に週2日の休養日を設けている。また、挨拶運動にも積極的に取り組んでいる。	A	・新型コロナウイルス感染症については、消毒とマスクの徹底、生徒や職員の検温チェックを実施して予防に努めた。 ・部活動では原則週2回の休養日を設け、活動を行った。また、マスク着用と2M程度の間隔を取ることを徹底させて挨拶運動を行った。	A	・手洗い、消毒、マスク着用など、学校の感染症予防の対応ができています。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定をする。 ・学校閉庁日の設定をする。 ・部活動休養日の設定をする。	B	・定時退勤日等の設定はできているが、時間外在校等時間の上限を超えている職員が数人いる。	B	・毎月の超過勤務時間45時間以内を考慮して、業務を計画的に実施するように努めている。中間評価時より定時退勤日の退勤率が15.1%、休日の部活動を交代で指導しているが6.6%上昇した。	A
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○教師力の向上(非公表項目)	○専門性の向上に向けた研鑽 ○組織の一員としての職務遂行	○教材研究、自己研鑽に努める。 ○協働や連携によるOJTを実践する。 ○報告・連絡・相談による共通理解・共通実践を遂行する。	・校内研究、校内研修による課題の焦点化と情報提供を行う。 ・各部会(学年、教科、分掌)の情報交換を行う。	B	・研究会や研修では、研究主任や各担当の主任が工夫し取り組んでいる。 ・各教科部会では、取組に温度差が見られる。	A	・校内研究では、道徳教育を中心に研究を進めた。主任のリーダーシップのもとに、便りや資料を発行して取組の充実を図った。 ・各教科部会では、特に評価について研修を深めた。	A	・大規模校の苦労や校舎移転に関する作業などがある中、子どもの指導に熱意をもって取り組んでいただいている。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・本年度は、2回の学校評価アンケートを実施した結果を見ると、中間評価後の取り組みに改善が図られ、それぞれの成果目標の達成に努めることができた。職員間での情報共有がなされ、全職員がチームとして取り組む意識が高まったといえる。 ・本年度はコロナ禍で学校行事が縮小され生徒の活躍の場が少なくなりましたが、時期や内容を工夫してできる限りの行事を実施することができた。来年度も、生徒たちが学習や行事に生き生きと取り組む姿が見られるように、しっかりと職員の意思疎通を図り教育活動を進めていきたい。
----------------	---